

発行 第2号

昭和40年1月1日 発行 利尻町役場 印刷 利礼資材印刷部

報 新 月 刊

ま ち の あ ゆ み
- 12月 -
1日 歳末たすけあい
2日 新湊小増築完成
6日 災害公住入居
11日 義接金配分会
18日 町議
25日 青少年辯論大会



蔵 議 長



小 田 桐 清 実



春 頌

新年をむかえて

利尻町長 小田桐清実

輝かしい希望に満ちた一九六五年の新春を迎えましておめでとうございます。昨年は災害に明け、凶漁に暮れましたが、みなさんの挑ゆまざる努力と、たくましい意慾とにやりまして無事に復興第一年を迎えましたことは御同慶に堪えません。

私も町長就任以来、三度目のお正月を迎え、まだ木の香の新しい公宅で、屠蘇を吸みながら静かに昭和四十年の構想を練っています。今年「完全復興」と「産業の振興」に重点をおいて不言実行したいと考えております。

「完全復興」とは災害地域(杵形地区)の完全復旧を指し、いわゆる今年に持越された役場・病院・簡易水道などの残工事の完成と、都市計画の完工であり「産業の振興」とは基幹産業である漁業と、関連する加工業の進展を図ることであり、これと併せて観光産業をおこすことでもあります。このことは経済団体である漁業協同組合と商工会との緊密な連携を取り、町政を通して実施できるもの。例えば魚礁の築設、昆布礁の造成、漁業近代化資金の導入、農・畜・林業などの技術指導を行い、観光みやげ品の製造と観光客の受入体制、環境の美化運動など、細分すれば数限りなくありますが、これとて限られた財政の中で、情勢の変化に応じ、必要度の高いものから順を遂げて実行して行く所存でございます。なお、本年は利尻高等学校の道移管が約束づけられ、また利礼国定公園昇格の問題も最終段階にあり、昨年比してなお一層の困難が予想されますが、町民の支援を得て不運転の意気をもってこれらの問題を善処して行く覚悟であります。そのためには私も心からハダカになり、町民の心をとし、人と人のつながりを密にしてフワワリと温かい家族的な雰囲気の中で「住民と共に在る町政」を實施してゆきたいと念願しております。住民もまた、もつと膝の距離を縮めて話し合いの場を多く持つて頂きたいと思えます。理事者だけが先走つたり、独走したりして住民と遊離した施策は懐しむ考えです。「押しつけた行政」「見せるための行政」は出来るだけ避け「足らざるを満たす行政」でありたいと念願しております。

年頭の辞

利尻町議会議長 蔵 信 治

昭和四十年の輝かしい新春に当り、町議会を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。過ぐる昭和三十九年は、我が利尻町にとつて永久に

忘れることのできない年で、ここに新しい年を迎えて、先づ第一にもう二度とあのような惨禍を繰返さな強い決意を肝に銘ずると

ともに、私は理事者と力を合せて、消防力の増強に特に意を注ぎ、万一に備えて万全の態勢を整えることが緊要と完する次第であります。幸いにして、理事者、議

会並びに住民の一致団結と、道並びに関係機関のご協力によつて、火災の復旧は驚く程の早さで進められ、昨年中にすでに住家店舗等約百六十戸が完成し、役場庁舎、病院等の公共施設も目下着々建設工事が進捗中でありますことは町将来の発展のため誠に同慶に堪えません。本年は、昨年の礎石の上に更に拍車をかけ一日も早くこの復旧事業をやり遂げ、町行政を軌道に乗せ、

とかく世間では、人気を取らねば必要以上に不要不急の仕事をしたり、一部の人がだけ恩恵を蒙る施設をしたりして物議をかもしていますが、このような一人よがりの行政は決して町民に幸福をもたらすものではありません。また、私はハツタリやかけ引きのない町政を実施し、天国にハシをかけるような空想でなく、地上に平和で幸福な理想郷をつくる夢を抱いて着々と住みよい郷土の建設に努力して参りたいと存じておりますので今後共よろしく御支援のほどお願い申し上げます。いずれにしてもお互いが信頼の上に立たなければ、全町一致の体制が生まれません。全町協力一致のないところにいよいよ町政はあり得ないし、いよいよ新しき町づくりも、正しい前向きな姿勢も出て参りません。皆さん、今年も一層融和をはかり、豊かな郷土建設に邁進しようではありませんか。終りに町民の御多幸をお祈りして年頭の御挨拶と致します。

住民のしあわせを高めなければなりません。今後とも議会に対し、住民みなさんのご協力とご支援を願つてやみません。

又、本年は、本町永年の懸案であつた利尻高等学校が立派に整備の責任を果して、この四月から道に移管され、道立高校として新発足する、めでたい年でもあります。

杓形火災復興

土地区画整理事業とは

さきに、大火の洗礼を受けた、岩内町、森町などを訪れた人は、整然として復興したその市街美に、目を見張るということでした。

大火後の利尻町にも都市計画が生まれ、町民の皆さんの協力によつて、ことしは、面目を一新した杓形市街が現出しようとしております。

しかし、このような画期的な町づくりを進めるには、いろいろの障害や苦難も少なくありません。町は、町民皆さんの積極的な協力を心のさゝえとして、この事業を推進して参るつもりであります。

○都市計画のできるまで
五月十九日
○町議会議員協議会において被災地に都市計画を実施すること

ります。新春に当つて高校建設に心血を注がれた歴代の理事者及び議会並びに関係者に対し、深甚なる敬意を表すると同時に、利尻高等学校の健全な発展を願つて止みません。

最後に住民みなさんのご健康とご多幸を心からお祈りし、ご挨拶といたします。

五月二十一日

○午前十一時、被災地の地主及び罹災者と都市計画による道路拡張、新設についての打合せ(第一回)

○区画整理測量開始
○午後七時、測量班も加えて打合せ(第二回)

五月二十二日

○午後三時、都市計画による道路拡張、家屋移転等の全体協議



会(第三回)

○都市計画法による区画整理に決定
○午後六時、都市計画法適用の旨、道知事、土木部長、都市計画課長、宗合支庁長に打電要請

五月二十四日
○道都市計画課員一行来町 現況測量開始

○区画整理打合せ会
○臨時町議会
○利尻町都市計画区域設定を議決

六月五日
○区画整理「プロック」毎の説明、話し合いに入る

六月十日
○区画整理図、説明、話し合いともに完了

六月十二日
○建設大臣、「利尻町都市計画」を告示

○都市計画のあらまし
町議会の議決によつて、建設省から告示された都市計画の区域は、杓形地区内

のうち、種富町、日出町、本町、緑町、富士見町、富野、泉町となつております。

道路の数は、幹線街道である道々のほか、町道が一号から十一号までの十一本となつており、総延長は約二千七百メートルです。

道々は、このたびの計画によつて、道路巾員が十二メートルに拡張され、この街路の舗装、側溝整備など一切の事業は、土木現業所

が工事を施行することになつております。

町道については、町が工事を施行するわけで、十号街路(昨年着工)を除いては、全線今年着工の予定であります。

もちろん、全街路に側溝が取付られ、三号街路(旧道々、道銀、信金などの通り)は舗装もされます。

なお、街路ごとの延長と巾員は、次のようになつております。(別図参照)

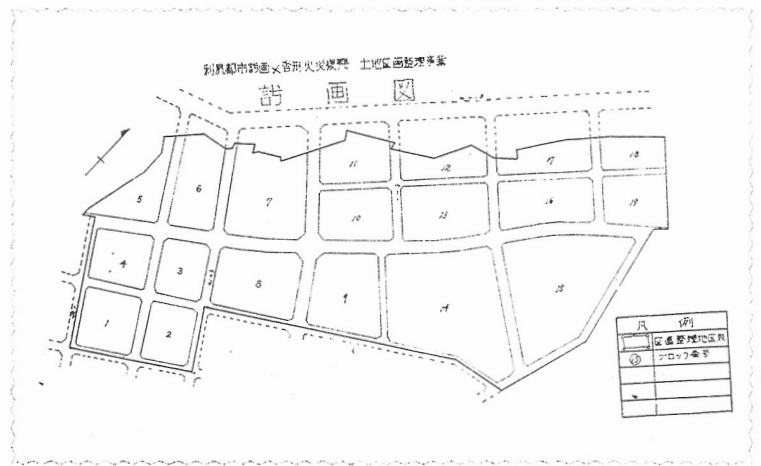
街路名	延長	巾員
一	一一八米	九米
二	二三四	九
三	二三五	九
四	一五〇	九
五	一八〇	九
六	三九九	九
七	二四四	九
八	一一四	九
九	三二〇	九
一〇	一一四	九
一一	八八	九
計一	九八二	

あとがき

私たちの町の区画整理事業が、災害後、僅か一カ月も経たないで、円満に話し合いがついたことは、他に例がないと、町村知事からおほめの言葉をいただいたが、これももちろん、町民の皆さん、とくに、被災地の地主の方々の積極的な協力のたまものにはかならないと思ひます。

しかし、不眠不休で、計画の作成にあられた稚内土木現業所の杉浦技術長、徹夜の連続で、整図にあられた道都市計画課の水島

係長ほか、道都市計画課と稚内土木現業所技術陣の熱意と努力が、この事業が円滑にすべりだした原因であることを忘れられないと思ひます。



歳末たすけあい運動によせた

善意 十五万七千八百円

哄笑、爆笑の素人演芸会

五百万道民がそろつて明るいお正月を迎えられるように、生活に困つている人や災害を受けた人などにあた

たかい手を差し伸べようと、歳末たすけあい運動として、毎年十二月一日から三十一日まで一カ月間行われております。この「たすけあい運動」は、市町村がNKKなどの報導機関と全面的な協力によつて実施したもので、集まったお金や品物は、収容

施設(養老院、少年院など)にいる人、長い間病氣療養の人なども配分され、私たちの町の「たすけあい運動」は、杵形地区では、十二月一日、職域十団体の協力による素人演芸会が、昼夜二回にわたって、杵形小学校で催された。日ごろ子ども達には、これい学校の先生や、まじめな顔をしているお母さん達、職場の人達の熱演(名)演に会場がわき、千五百人もの多数の観客の爆笑の渦巻でした。

この日、まず、笹本社協会長、利尻町長の挨拶のあと、次の順序で行われました。

- (協力団体名と劇名)
- (1)杵形連合婦人会役員の方々の舞踊「大阪城ほか」
- (2)稚内土木現業所利尻出張所職員の方々の喜劇「大家と蓄音機」
- (3)利尻高校先生方「バ



熱演中の杵形小学校の先生たち

- ラエテリ・ヨウ
- (4)杵形小学校先生方の喜劇「新版桃太郎」
- (5)杵形中学校先生方の魔術「国際大魔術」
- (6)杵形開発事業所職員の方々のパントマイム「ぶつたまげたことや」
- (7)杵形漁組職員の方々の寸劇「江差のステグラ物語のマー・三〇の巻」
- (8)町立病院職員の方々の歌謡漫談
- (9)宗谷バス会社職員の歌謡「歌の観光利尻線」
- (10)役場職員の方々の喜劇「只今勤務中」

この素人演芸会で、杵形地区では十一万四千七百九十円の募金がありました。この機会に出場された、職場の方々に厚くお礼を申し上げます。

また仙法志地区では、十二月十日に募金映画会を催し、四万三千十円の暖かい善意がよせられました。

このお金は、昨年中、生活に困っている人などに贈られて、非常によいことになりました。

町民の皆さんのご協力に心から感謝いたします。

冬季における漁船の海難防止について

冬季間における利尻島周

冬季間における利尻島周辺海域は、北洋特有の荒天と海況異変のため、海難事故の発生が多く、これに伴い悲惨な海難もあとをたない現状です。昭和三十八年の本道漁船の海難状況は、機関の故障、乗り揚げ、衝突、浸水、転覆などの順になつており、人為的な要素が主因となっています。

漁業者の方々は、これからも「すけそうたら」「たこ」「ほつけ」などの漁業に従事するわけですが、尊い人命と貴重な財産を守るため、出漁前の漁船の整備と、冬海特有の海況激変や気象状況に充分注意し、海

- 難事故をなくすよう努力されることを望みます。
- とくに、船主、乗組員の注意事項としては
- (イ)出港前の船体、機関の整備、点検の励行
- (ロ)整備用品、予備品のと
- う載
- (ハ)救命器具の完備
- (ニ)船体の復原力及び乾舷の確保
- (ホ)積荷の荷崩れ防止
- (ヘ)気象情報の早期把握
- (ト)早期避泊の徹底
- (チ)避難港の周知
- (リ)出入港または避泊港時の関係者への連絡

冬休み中の少年の非行を防ごう

子どもたちが待ち望んでいた冬休みにはいりました

楽しい冬休みは、一方となく不規則になりがちです。フトしたこと悪のみにちにおこむ子どもが多いので、この時期には、ふだんよりも子どもの生活に充分気をくばることが必要です。

昨年の冬休みには、全道

で、五千六百人の子どもが補導されました。特に、お正月の享樂的なふんい気のため、ふだんまじめな子どもまでがフトしたこと悪、酒やタバコをのんだり、はては、かつばらいやスリ、暴行障害など悪質なおこないをするのが目だつようになっています。

子どもを良不化から防ぐ第一の防波堤は家庭です。

家庭という防波堤から、かわいいお子さんがこぼれなように次のごらがらを守るようにしてください。

- 計画性ある規則正しい生活をさせる。
- 常に学習する習慣をつけさせる。
- 小づかい銭の正しい使い方を教える。
- 夜の外出はなるべくやめさせる。
- やむを得ないときには、行き先、用事などをハッキリさせて、帰宅時間を守らせる。
- 酒、タバコは絶対に飲ませない。
- 遊び友だちには、常に關心を持つ。
- 映画、不良図書などから悪い影響を受けないうにする。
- つとめて、子どもと楽しく話しかけ合う時間をつくる。

余燼

あいまわしい大火、そして、昆布、わかめ、うになどの近年にない凶漁、私

たちの町にとつて、最悪の年であった一九六四年を送り、いま清新の気みなぎる一九六五年を迎えた。

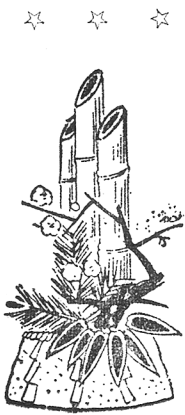
目ざましい火災復興は、世人驚嘆の的だという。

しかし、被災者には、完成途上の障害と苦難が数多く横たわっている。くじけることなくがんばつてくだ

い、水産業の転機を余儀なくされている利尻、礼文島、しかも、その指導的立場にある杵形の出方は、世人が注目しているという。

一致協力、昔日にまさる「まちづくり」をして、世人の注目に答えたい。

もちろん、漁業の振興が焦眉の急ではあるが「全国から寄せられた暖かい愛情で、こんなに復興しました。一度見てください」と謙虚な気持で、お客さんに来てもらうことも必要と思わ



あいまわしい大火、そして、昆布、わかめ、うになどの近年にない凶漁、私

冬季交通の確保は 皆んなの協力で

ことしも活躍する除雪車

新しい年、昭和四十年えある協力をお願いいたします。確保にかけられております。

敵寒の早朝、雪壁にひどむ機械力、その力強い響きはそのまま、離島文化の建設と産業振興えの前奏曲でもあります。

ご承知のように利尻島の雪は、利尻山の影響によって吹溜りの個所が多く、このため毎年除雪作業を実施している稚内土木現業所利尻出張所の苦勞も大変なものです。

幸いにも、昨年度から北海道庁の厚意によって、島の冬季交通確保のためにロータリー除雪車一台、除雪ブルドーザー二台、除雪トラック一台の四台組み合せての本格的な除雪作業に入っております。

今年度の除雪作業は、十二月一日からはじめられ、作業は慎重にしかも計画的に行われておりますが、島内五十四軒の道々の中には、大型除雪機械の運行にたとえ運転手が充分注意して、かなり危険な個所もありますので、皆さんの理解

除雪作業えの協力について

ロータリー車は雪を遠くまでねとばし、大型ブルドーザーは広い道巾を必要としますので、子ども達を絶対に車に近づけないようにしてください

道路に車や商品、雑品などを放置しない、また私設の工作物は前もって取り除いてください

道路での向さばきや作業をしないでください
道路でスキー、スケート、ソリ遊びなどさせないでください
除雪した雪を道路に投げ返さないでください
除雪えの協力について
消防活動が充分できるよう消火栓のまわりや家のまわりを除雪してください

どこでも勝手に雪を捨てないでください

酔ばらい運転を 追放しよう

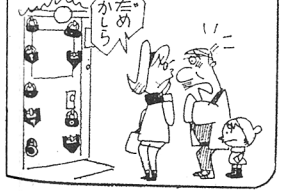
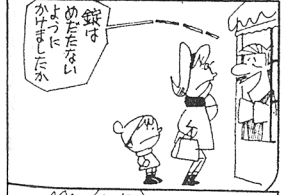
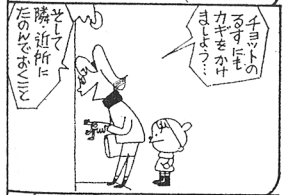
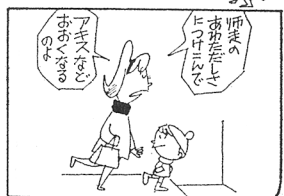
お酒を飲んでほろ酔い気分になるのは、とても気持ちよいものです。

ところが、この状態で車を運転すると、事故にあう危険が非常に多く、また、いつたん事故を起こすと、必ずといってよいくらい大きな事故になりやすいものです。

ことしに入つて九月末までに、道内で交通事故が八千五百六十八件起きていますが、このうち酒に酔つて運転したために事故を起こしたものが七百七十八件と全体の九・三%という高率を示しており、いぜんとして事故原因のトップクラスにあります。これからは年始にはいり、酒を飲む機会が多くなることと思われま

すが、次のことがらを守つて事故を防ぐよう心がけて

謹賀新年



運転中は酒を飲まない
—酔っばらい運転の防止—

●酒を飲む場所へは、絶対に車を運転して行かないようにする。どうしても、行かなければならないときは、車を置いてタクシーかバスを利用する。

●車を運転している人には、絶対に酒を飲まないようにする。相手が車を運転

しているようなときには、酒を飲ませないこと。

●特に冬はヒーターで車内があたたかくなつているとき、最初は酔つていないと思つても運転しているうちに、あたたかさのために酔

せん。調和しないことがわかつていながら、酒を飲んで車を運転するのは、自分と、場合によつては他人をも道連れにするく自殺行為です。酒を飲んだら運転しない、運転するときは酒を飲まないことを実行しよう。

●酒を飲むとなぜ危険か
酒に酔うと、次のような状態になります。

●物を正確に見る力が鈍くなり、夜みちでは、人が歩いていてもわからなかつたり、道路に物があつても気がつかなくなる。

●運動神経が鈍くなり、動作がかんまんになつてとつさの危険にあつても、すぐにハンドルをきつたり、ブレーキを踏んだりすることができず、大きな事故をおこす原因になる。

●からだの均衡を保つことができず、体重が足を伝つてアクセルを踏む力が必要以上に加わるため、スピードがでて暴走することになる。また、酒に酔つているとスピード感が鈍くなる。

